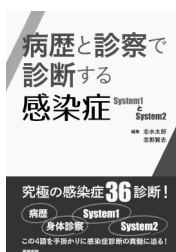


書評

[評者]

岡 秀昭

埼玉医科大学総合医療センター総合診療内科・感染症科診療科長/准教授



病歴と診察で診断する感染症 System 1 と System 2

志水太郎, 忽那賢志 編

●B5 頁 236 2018年4月

定価：本体 4,200 円＋税

[ISBN978-4-260-03538-5]医学書院刊

◆総合診療、感染症内科の実力者が執筆

レプトスピラ症、メリオイドーシスなど感染症医が喜びそうな診断名も散見されるが、本書は決して、感染症オタクのための本ではない。

私は常日頃から、感染症の研修を開始するに当たり、まずは内科の研修をしっかり修了することを勧めている。というのも私自身がそうであったのであるが、単なる微生物や抗菌薬に詳しいだけでは、バイキンの先生であって、真の感染症内科医にはなれないのである。これは循環器でも、消化器でも同じではないかと思う。感染症科医なのか、それとも感染症内科医なのか。循環器科医なのかそれとも循環器内科医なのか。私は真の内科医に憧れる。

本書は決して編者の忽那賢志先生のような感染症専門家ばかりで書かれているわけではない。編者の志水太郎先生は総合診療の若きリーダーであり、他の著者も総合診療医の実力者、真の内科医が多数名を連ねる。

また感染症専門家である著者であっても、私の憧れる真の内科医により書かれている。

◆診断過程と疾患知識を同時に身につけることができる欲張りな本

感染症は臓器非特異的に生じるため、診断には的確かつ詳細な病歴聴取と全身をくまなく診察する能力が求められる。診断が付けば、微生物を推定し、適切な抗菌薬を選択すればよい。つまり診断が大きなウエイトを占める。真の内科医であれば、病歴と診察で診断することにこだわりたい。

本書は洗練された総合診療医と感染症内科医たちによる System 1 の判断や System 2 の思考による診断過程を学ぶことができ、合計 36 例の症例を検討追隨することで、感染症の知識も身につけることができる欲張りな書籍である。

憧れの内科医、総合診療医、感染症内科医をめざす全ての医師にお勧めしたい。